



# 総合資料館だより

2013. 4. 1 No. 175

## 植物園北遺跡の発掘調査

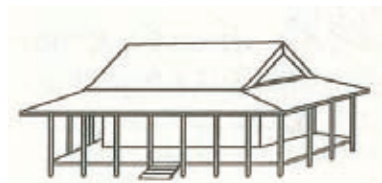


三面庇付建物跡（南から撮影）

植物園北遺跡は、昭和49年の地下鉄烏丸線北進工事に先立つ分布調査等により確認された集落遺跡です。遺跡は、京都市北区上賀茂から左京区下鴨の北部にかけて広がっており、弥生時代後期から古墳時代前期を中心として縄文時代から近世まで各時代の遺構が見つかっています。

新総合資料館（仮称）等の建設予定地（左京区下鴨半木町）は、遺跡の南限に位置するため、工事に先立ち、平成23年11月から25年3月まで発掘調査が実施されました。

約8,200㎡の調査地からは、主に奈良～平安時代の掘立柱建物を中心とする遺構群が検出されました。特に平安時代前期は、規格性をもって整備された集落の中に三面庇をもつ建物が配置されていることが確認され、一帯が有力な集団の居住域であった可能性が指摘されています。また、三面庇付建物跡の北側で確認された近世の流路跡は、江戸時代の絵図にも描写され、上賀茂村と下鴨村の境界とされた乙井川と推定されています。



三面庇付建物イメージ

（写真及びイメージ図提供：公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター）

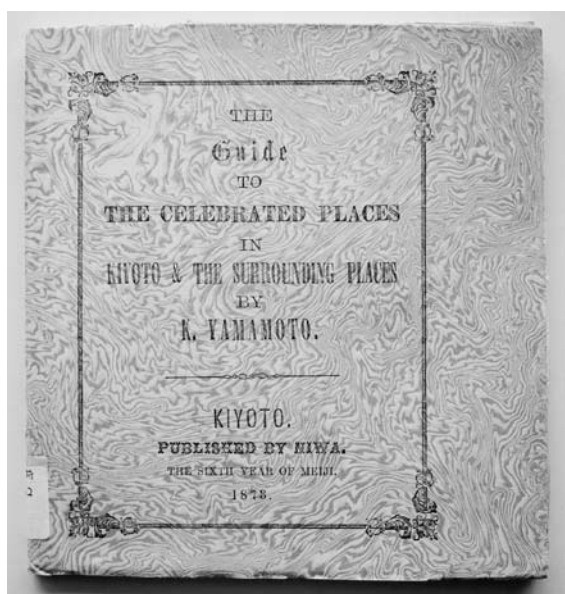
目次	植物園北遺跡の発掘調査	1
	文献課の窓から 山本覚馬と京都博覧会	2
	歴史資料課の窓から 京都府庁文書に見る濃尾地震	4
	最近の収集資料から（平成24年12月～平成25年2月）	5
	新館情報	7
	友の会事務局から、古文書相談のご案内、日誌、利用案内	8

## 山本覚馬と京都博覧会



覚まる

文献課では、NHK大河ドラマ「八重の桜」にちなみ、主人公である新島八重、その夫の新島襄、そして八重の兄である山本覚馬についての資料を集めたコーナーを設置しました。その一角に“The guide to the celebrated places in Kiyoto & the surrounding places for the foreign visitors”という小冊子を展示しています。今回はこの小冊子についてお話したいと思います。



### 京都府顧問となった山本覚馬

八重の兄である会津藩士山本覚馬（1828～1892）は、京都守護職に任ぜられた藩主松平容保に従って文久2（1862）年に上洛しました。江戸で西洋の学問を学んでいた覚馬は、京都に洋学所を開設、これを広く開放して、新しい学問の普及に努めました。しかし、このころから目の病気を患い、次第に視力を失ってしまいます。

慶応4（1868）年、鳥羽伏見の戦いにおいて新政府軍が勝利すると、幕府軍だった会津藩士の覚馬は、参加していなかったにもかかわらず捕えられ、薩摩藩邸に幽閉されました。

薩摩藩邸での幽閉の間、覚馬はこれからの国家運営について、政治、経済、教育など23項目にわたって意見を述べた『山本覚馬建白』（『管見』）を野澤鷄一という会津藩の若者に口述筆記させて薩摩藩に提出しています。ここに記された覚馬の見識は高く評価され、明治2年に釈放

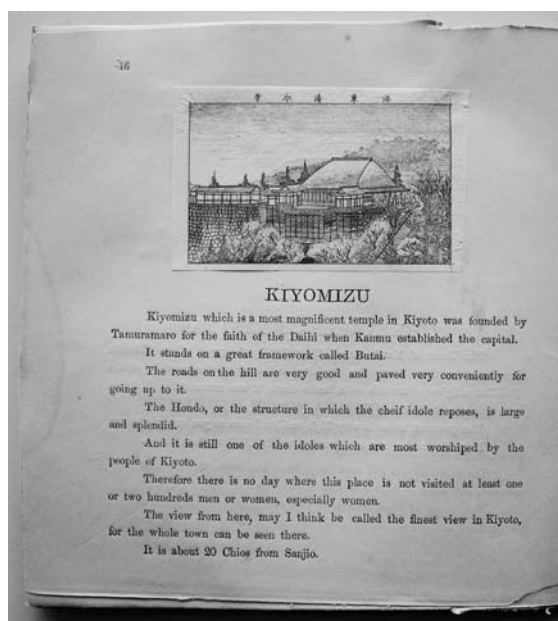
されると、覚馬は京都府顧問として採用されました。こうして、覚馬の考えや意見は、府政のさまざまな分野に活かされることとなりました。

### 京都での博覧会開催

覚馬関わった京都府の勸業政策の一つに博覧会事業があります。東京遷都で落ち込んだ京都の経済を立て直すため、明治4年、京都の有力商人らが中心となって、日本で最初の博覧会が開催されました。これを受けて、官民合同で京都博覧会社が設立され、翌年には第一回京都博覧会を開催。その後、博覧会は昭和3年まではほぼ毎年のように開催されることとなり、京都の産業と経済の発展の原動力となりました。

### 京都で最初の英文活版印刷

「博覧会を外国人にも観覧してもらいたい」。しかし、その当時の外国人には「外国人遊歩規定」というものがあり、居留地から出て自由に移動できる範囲が制限されていました。京都府は、特別に外国人入京許可を出すよう国に願い出、その結果、第一回京都博覧会では80日間で770人もの外国人が博覧会に訪れました。



覚馬は、これら入京する外国人のために、英文の観光ガイドブックを作成することにしまし

た。覚馬が原稿を作り、覚馬に教えを受け、盲目の覚馬を万事にわたりサポートした丹羽圭介（1856～1941）らがそれを英文にしました。印刷には印刷輪転機を使用し、英字を組み合わせる作業は、妹の八重が行いました。

この印刷輪転機、ドイツから輸入されて以来誰にも使用されておらず、組み立てもされていない状態でした。京都府でドイツ語教師をしていたルドルフ・レーマン（1842～1914）の助けで、どうにか組み立てることができ、印刷することができました。

京都府顧問自らが作成に関わり、弟子や妹、お雇い外国人をも巻き込んで完成したのがこの小冊子“The guide to the celebrated places in Kiyoto & the surrounding places for the foreign visitors”です。



大きさは約19cm×18cmで、48ページ。京都中心部と周辺部の地図が1枚折り込みで付いています。京都と宇治、滋賀の名所46箇所が紹介されており、1ページごとに石田才次郎（1847～1926）の手による名所の銅版画が貼り付けられ、その下に案内文が印刷されています。

後年、丹羽圭介はこのガイドブックのことを「これは当時京都第一の新知识であった山本覚馬氏の指導により私が主となって拵えたものであるが、もちろん京都最初の欧文活版印刷であった」（『京都博覧協会史畧』）と述懐しています。

### おわりに

今回ご紹介した小冊子がドラマの中に登場するかどうかはわかりませんが、このような史実が、ドラマにどのように表現されるかに注目して見るのも、歴史を題材としたドラマの楽しみ方ではないでしょうか。文献課の資料紹介コーナーでは、八重・襄・覚馬についての研究・解説した図書を集めていますので、ドラマの予習(?)にも、お気軽にご利用ください。

### 参考文献

- ・『山本覚馬』青山 霞村／著 同志社 1928.12 (K/ 289.1/ Y31)
- ・「山本覚馬建白」（『管見』）同志社大学貴重書デジタル・アーカイブ (<http://elib.doshisha.ac.jp/denshika/yamamoto/128/imgidx128.html>)
- 今までは昭和3年発行の青山霞村著『山本覚馬』に掲載されている『管見』以外、写本や引用も発見されていなかったが、昭和57年に同志社大学図書館で『管見』の写本が見つかった。写本では、従来の『管見』より項目が1つ多い。（大西友三郎「山本覚馬の建白書「管見」の写本について」『びぶりおてか 同志社大学図書館報』32 1982.10 pp.15-16）(ヒ7/ K)
- ・『京都印刷一千年史』京都印刷一千年史編集委員会／編 京都府印刷工業協同組合・京都府印刷工業組合 1970.10 (K0/ 749.21/ KY6)
- ・『京都府百年の資料 2 商工編』京都府立総合資料館／編 京都府 1972.3 (MK0/ 216.2/ KY6/ 2)
- ・『京都博覧協会史畧』大槻 喬／編纂 京都博覧協会 1937.8 (洋/ 993/ 87)

41ページに京都最初の英文活版印刷として、今回紹介した小冊子と若干ちがうものが掲載されている。発行が博覧会社となっており、発行年は皇紀で表示されている。外国人向けではなく、国内向けに作成したものである。



八重まる



襄まる

## 京都府庁文書にみる濃尾地震 —英照皇太后の在京記録など—

明治24年（1891）10月28日に岐阜県本巣郡（現在の本巣市）の根尾谷断層付近を震源とするマグニチュード8.0の地震が発生しました。この地震による被害は甚大で、岐阜県・愛知県を中心に死者7200余名を記録し、明治年間で最大の内陸型地震と言われました。京都府内でも、久世郡・愛宕郡などを中心に堤防・道路・家屋に被害があったと伝わります（『日出新聞』明治24年10月30日）。

孝明天皇の女御で明治天皇の母である英照皇太后（天保5/1834～明治30/1897）は、この時、京都に滞在していました。皇太后は、泉涌寺にある孝明天皇陵（後月輪東山陵）を参拝し、11月上旬に奈良県内の視察を経たのちに神戸から東京に帰る予定になっていました。その時、地震に遭遇しました。

行啓に付き従っていた関係者は、地震の一報が伝わっても詳細がわからなかったため、三重県の津測候所を通じて情報の収集に努めました。また、奈良に往く道筋の道路状況を急遽、調査しています（京都府庁文書：明24-31 皇太后陛下行啓書類）。結果として道路に大きな被害はなく、奈良行きは予定通り実施されました。しかし、11月中旬に東京へ帰る経路については変更を余儀なくされています。

当初は神戸から官設鉄道（現在のJRの東海道線。明治22年に全通）で新橋まで行く予定でしたが、大垣～名古屋間が不通であったため、取り敢えず官設鉄道と関西鉄道を乗り継いで三重県の四日市まで出ました。その後は線路が未敷設であったため、江戸時代の東海道沿いに板輿や船を使って愛知県の熱田まで向かい、そこから汽車に乗って帰りました。

この震災に対して、京都府民からは義捐金・救恤金が数多く寄せられました。各宗教界・祇園町・京都米商会所・日出新聞社などで義捐金の募集をしました。また、日赤京都支部・医学校の医員らが現地に向かいました（『京都府百年の年表』4）。府民からの義捐金・救恤金に対して

は、1年余り後に岐阜県・愛知県・福井県知事から賞状・褒状が、寄付をした団体・個人に渡されました。賞状等は京都府から各郡役所を通じて配られ、その請書が府庁文書に残されています（京都府庁文書：明26-18 来書綴）。

それらによると、賞状等の対象は府内全域に及び、団体では尋常小学校に対してのものが多く見られます。その他に、郡教育会、村、宗教団体、個人に対して発行されたものがあります。宗教団体については既存の仏教寺院だけでなく、神道金光教や基督協会など当時の新興の宗教団体も見られます。

また、岐阜県羽栗郡竹ヶ鼻町（現羽島市）役場は震災の際に戸籍帳簿類が焼失しました。郡役所に差し出されていた副本も焼けたため、町外に出た避難者に対して同町役場まで戸籍を届けるようにとの連絡が、翌年3月に岐阜県知事から各府県知事を通して出されました。それを受けて京都府では郡町村役場・京都市区役所にその文面を伝えるべく手続きが行われています（同：明25-9 甲号原書）。

このように、120年前の濃尾地震の記録は京都府庁文書にも断片的ながら残り、社会の混乱の様子、救援の姿などを今に伝えています。

（歴史資料課；行政文書担当 大塚活美）



京都府庁文書 皇太后陛下行啓書類



## 最近の収集資料から（平成24年12月～平成25年2月）



### ◆図書資料

〈京都〉

**丹波国西国と御詠歌** ふるさと再発見丹波国  
三十三カ所巡り 志保美円照著[刊] 2012 88p

**手記と座談会で語り継ぐ舞鶴空襲** 戦争の記憶  
を記録する 戦争・空襲メッセージ編さん委員  
会編著 つむぎ出版 2012 200p 寄贈

**古事記・日本書紀とやましろ** 資料館開館30周  
年記念・古事記編纂1300年記念 京都府立山城  
郷土資料館編刊 2012 45p (展示図録 33)

**牧師夫人新島八重** 雑賀信行著 雑賀編集工房  
2012 302p

**ラストサムライ山本覚馬** 鈴木由紀子著 NHK  
出版 2012 249p

**管理組合明日への挑戦** 業務推進プロジェクト  
チーム報告 京滋マンション管理対策協議会編  
刊 2012 47p 寄贈

**伏見板橋** 創立140周年記念誌 京都市立伏見  
板橋小学校編刊 2012 21p

**訪問看護の泣き笑い** あなたのお宅へ今日もゆ  
く 訪問看護師は生涯現役! 訪問看護書籍編集  
委員会編 洛和会ヘルスケアシステム介護支援  
部介護事業部 2012 205p 寄贈

**福知山美味にございます** 福知山のおみやげ  
福知山味趣覧会[編]刊 2012 70p (福知山味趣  
覧会Guide No.3) 寄贈

**京狩野三代生き残りの物語** 山楽・山雪・永  
納と九条幸家 五十嵐公一著 吉川弘文館  
2012 7,227,10p

**短歌志賀の里** 第2集 短歌志賀の里[編]刊  
2012 92p 寄贈

〈人文〉

**書誌年鑑** 2012 中西裕編 日外アソシエーツ  
紀伊國屋書店(発売) 2012 7,481p

**日本新聞年鑑** 2013 日本新聞協会編刊 2012  
657p

**日本図書館史年表** 弥生時代～1959年 復刻  
藤野幸雄監修 田村盛一ほか編 金沢文圃閣  
2012 234p (文圃文献類従 27) 寄贈

**国立国会図書館年報** 平成23年度 国立国会図  
書館編刊 2012 15,305p 寄贈

**専門新聞要覧** 第48号(2013年版) 日本専門新  
聞協会編刊 2012 245p 寄贈

**中世文化と浄土真宗** 今井雅晴先生古稀記念論  
文集編集委員会編 思文閣出版 2012 8,642p

**遣隋使がみた風景** 東アジアからの新視点 氣  
賀澤保規編 八木書店 2012 4,443p

**古代日韓造瓦技術の交流史** 清水昭博著 清文  
堂出版 2012 6,368p

**小山評定武将列伝** 小山市編刊 2011 415p  
寄贈

**たたら製鉄と近代の幕開け** 日本独自の文化遺  
産 鳥根県立古代出雲歴史博物館編 鳥根県立  
古代出雲歴史博物 2011 105p 寄贈

**戊辰戦争と「朝敵」藩** 敗者の維新史 水谷憲  
二著 八木書店 2011 14,420,63,15p

**越境する日本人** 工芸家が夢みたアジア1910s-  
1945 東京国立近代美術館[ほか]編 東京国立  
近代美術館 2012 151p

**江戸戯画事典** 清水勲編著 臨川書店 2012  
276,7p

風俗絵画の文化学 2 虚実をうつす機知 思  
文閣出版 2012 2,435,5p

歌と語りの言葉とふしの研究 藤田隆則・上野  
正章編 京都市立芸術大学日本伝統音楽研究セ  
ンター 2012 267p (京都市立芸術大学日本伝  
統音楽研究センター研究報告 7) 寄贈

義太夫年表 昭和篇第1巻 昭和2～11年 日本  
芸術文化振興会国立文楽劇場部事業推進課義太  
夫年表昭和篇刊行委員会編 和泉書院 2012  
10,604p 寄贈

\*アジャインター壁画の研究 研究篇・図版篇 定金  
計次著 中央公論美術出版 2009 2冊 寄贈

\*石山寺の美術 常楽会本尊画像の研究 安嶋紀  
昭著 法藏館 2012 151p 寄贈

\*源氏物語画帖 石山寺蔵四百画面 鷺尾遍隆監  
修 中野幸一編集 勉誠出版 2005 417p 寄  
贈

\*国宝源氏物語絵巻 徳川美術館・五島美術館  
編 城野誠治撮影 中央公論美術出版 2009  
357p 寄贈

\*宇治拾遺物語絵巻 陽明文庫蔵重要美術品 狩  
野探幽ほか画 名和修監修 勉誠出版 2008  
266p 寄贈

\*白隠禪画墨蹟 禪画篇・墨蹟篇・解説篇 白隠  
[画・書] 花園大学国際禅学研究所編 芳澤勝弘  
監修・解説 二玄社 2009 3冊 寄贈

\*ミネアポリス美術館浮世絵名品集成 ミネアポ  
リス美術館編 藝華書院 2011 367p 寄贈

\*中国出土壁画全集 1～10巻・別巻 徐光冀総  
監修 古田真一監修・訳 科学出版社東京  
2012 11冊 寄贈

\*臥遊 中国山水画－その世界 小川裕充著 中  
央公論美術出版 2008 6,437p 寄贈

\*チベット仏教絵画集成 タンカの芸術 1～6  
巻 田中公明編 ハンビッツ文化財団 1998～  
2012 6冊 寄贈

\*明治天皇紀附圖 [五姓田芳柳画] 明治神宮監  
修 吉川弘文館 2012 81枚 寄贈

\*フェルメール全作品集 フェルメール[画] 小  
林頼子監修・著 小学館 2012 189p 寄贈

\*印の資料は、財団法人京都高等学校から御寄贈  
いただきました。

〈官庁〉

日本都市年鑑 70(2012) 全国市長会編 第一  
法規 2012 766p

独立行政法人総覧 平成23年度版 政策評価・  
独立行政法人評価委員会編刊 [2012] 624p  
寄贈

労働協約等実態調査報告 労使関係総合調査 平  
成23年 厚生労働省大臣官房統計情報部編刊  
2012 145p 寄贈

国民健康・栄養の現状 平成21年厚生労働省国  
民健康・栄養調査報告より 国立健康・栄養研  
究所監修 第一出版 2012 6,191,79p

世界農林業センサス 2010年第2-8巻 農林水  
産省統計部編 農林統計協会 2012 9冊

「詳しくうかがいましょ!」 技術のよろず相談  
所 京都精華大学事業推進室編集制作 京都府  
中小企業技術センター 2012 34p

キャリア・デザインとワーク・ライフ・ balan  
ス 仕事と生活の相乗効果を生み出そう 京都  
ワーク・ライフ・バランスセンター[編]刊 2012  
1冊

京都府民歯科保健実態調査報告書 平成23年度  
京都府健康福祉部健康対策課編刊 2012 65p

京都市公営交通100年のあゆみ ～写真で振り  
返る～ 京都市交通局[編]刊 2012 17p

八幡市統計書 平成24年版 八幡市政策推進部  
政策推進課[編]刊 2012 140p 寄贈

亀岡市の下水道 平成23年度 亀岡市上下水道  
部[編]刊 2012 81p 寄贈

■文書資料(新しく公開する資料)

**二ノ瀬村杉原家文書** 二ノ瀬村(現在京都市左京区二ノ瀬町)で薪炭商売をしていた杉原孫衛門家に伝来した文書。杉原家に関わる資料が中心で、山地や柴木の売買証文、諸入用覚のほか養子縁組や、壬生で商売をしていた親族からの資金援助願等の書状、安政3年(1856)の家普請の文書がある。また、二ノ瀬村は儒学者林家の領地(石高34石9斗余)であり、林家代々の霊を祭った奉先堂を村の侍仲ヶ間(御堂付侍拾八軒)で守っていた経過がわかる資料がまとまっている。ほかに文政期の二ノ瀬村の人別の屋敷・畑の広

さ・石高をまとめた文政10年(1827)「高反別明細帳」がある。寛保8年(1742)～大正8年(1919)。361点。寄贈。

**上田氏旧蔵文書** 亀山城下町々の軒数・諸入用・事件等を記した明和元年(1764)～天保6年(1835)「町中惣割勘定大帳」、寛保2年(1742)の丹波山方村々と嵯峨・梅津・桂材木屋中との争論の済状、船井・桑田両郡の郷土名前書帳、伏見誌抜書等の京都関係資料のほか、幕末の風説書、武家故実書、「大日本輿地便覧」等の木版本、他府県(滋賀・大阪・鳥取)の資料等がある。寛保2年(1742)～慶応元年(1865)。27点。

新館情報

今年度から新総合資料館(仮称)の新築工事が始まります。



設計競技時の施設イメージ

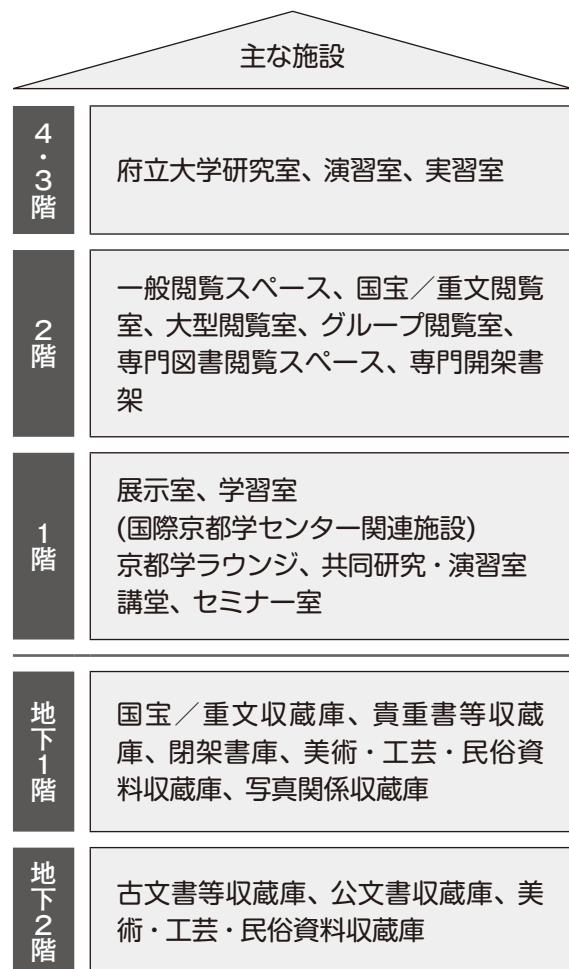
入札公告(一部抜粋)

1 入札に付する事項

- (1) 工事名  
新総合資料館(仮称)新築工事(主体工事)
- (2) 工事場所  
京都市左京区下鴨半木町
- (3) 工事概要  
構造・階数 鉄骨造地上4階地下2階建て  
建物規模 延べ面積23,933.22平方メートル
- (4) 工事期間

この公告に係る契約についての京都府議会の議決を得た日の翌日から平成27年10月30日まで

公告日:平成25年2月1日  
開札日:平成25年4月9日(予定)



## 友の会事務局から

### ○東寺百合文書展列品解説

3月8日(金)に、友の会会員向けの東寺百合文書展列品解説を行いましたところ、15名の皆様に参加いただきました。

解説終了後は、解説担当者に質問をされるなど、熱心に御観覧いただきました。



### ○会員募集状況

皆様に平成25年度の会員募集の御案内をさせていただきましたところ、3月1日現在で、203人の方にお申し込みいただいています。

友の会に入会いただきますと、総合資料館だよりや各種講座、催しの御案内をお送りし、また、現地講座や近隣府県の文化施設等への見学会などに参加いただけます。

随時申込みを受け付けています。多数の方のご入会をお待ちしております。

問合せ先：友の会事務局

(資料館庶務課内：TEL 075-723-4831)

### ○現地講座の開催

5月から6月上旬に現地講座を計画しております。近く、参加者募集等について、御案内できるよう準備を進めております。

#### ◇現地講座

京都市内の歴史・文化施設を訪ね、当該施設の担当者からの講演や施設見学を行います。(2時間程度)

## 古文書相談のご案内

○古文書の内容や解説についての相談を郵送にて受け付けております。

○地域に残る資料の解説・整理取り扱いなどに関するご要望があれば、職員が出張して行います  
いずれも詳細は、当館歴史資料課(TEL 075-723-4834)までお問い合わせください。

## 日誌(平成24年12月～25年2月)

12.8(土)～23(日)

国立公文書館所蔵資料展「公文書の世界 in 京都」

12.9(日) 国際京都学シンポジウム「ユーラシアからみた京都」

12.21(金) 京都学へのいざない講座 第4回

1.13(日)・1.20(日)

「本づくりプロジェクト」ヨシ刈り体験

2.13(水) 「本づくりプロジェクト」よしづくり体験

2.23(土)～3.17(日) 東寺百合文書展  
－原本と翻刻で見る古文書の世界－

## 利用案内

休館日 祝日法に規定する休日、  
毎月第2水曜日、資料整理期、  
年末年始(12月28日～1月4日)

[4月～6月の休館日]

4月10日(水)、29日(月・祝)

5月3日(金・祝)、4日(土・祝)

6日(月・振)、8日(水)

20日(月)～31日(金)【資料整理期】

6月12日(水)

開館時間 午前9時～午後4時30分

交通 京都市営地下鉄烏丸線・北山駅下車  
市バス④、⑧・北山駅下車  
京都バス④⑤、⑥・前萩町下車

ホームページ <http://www.pref.kyoto.jp/shiryokan/>

発行 京都府立総合資料館

〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1-4

京都府立総合資料館友の会(振替 01030-2-11991) TEL. 075-723-4831 FAX. 075-791-9466

○本誌に対するご意見・ご感想などを当館庶務課までお寄せください。

再生紙を使用しています。